

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果について

和寒町教育委員会

文部科学省は7月31日、小学6年と中学3年を対象に4月に実施した平成30年度全国学力・学習状況調査の結果を公表しました。同調査は、国語、算数（中学は数学）、理科の3教科の学力テストで、それぞれ知識に関して出題するA（基礎）と活用に関して出題するB（応用）の2部門を実施しました。それによると、道内の公立小中学生の平均正答率は、中学校では国語A、理科で全国を上回り、国語Bは全国と同じ結果となりました。前年度と比べると、全国との差が小学校国語A、中学校数学Bで縮まった一方で、小学校国語B、算数B、中学校数学Aで広がりました。

本町の小中学校の結果は、全国平均と比較すると以下の通りとなりました。

教科	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
和寒小学校	上回っている	上回っている	上回っている	上回っている	上回っている

教科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
和寒中学校	上回っている	上回っている	下回っている	下回っている	ほぼ同値

上図の通り、小学校では5科目全てで全国を上回り、中学校では3科目で全国を上回る結果となりました。小中全ての教科で無回答率が低かったのが特徴的で、詳細については以下の通りとなっています。

【国語】

小学校国語AとBについては、全国を上回りました。また、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」の4つの領域の平均正答率については、Aの「読むこと」で全国とほぼ同値になったものの、その他の領域についてはA B共に全国を上回りました。一方中学校国語AとBについては、全国を上回りました。また、各領域等の平均正答率については、A B共に全ての領域において全国を上回りました。

【算数・数学】

小学校算数AとBについては、全国を上回りました。また、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4つの領域の平均正答率については、Aの「数と計算」「数量関係」で全国と同値になったものの、その他の領域についてはA B共に全国を上回りました。一方中学校数学Aについては、全国を下回りました。各領域等の平均正答率については、Aの「量と測定」「数量関係」、Bの「図形」「数量関係」については全国と同値になったものの、総合的には全国を下回りました。

【理科】

小学校理科については、全国より大きく上回りました。「物質」「エネルギー」「生命」「地球」の4つの領域の平均正答率については、全ての領域について全国を上回り、「知識」の枠組みでは9割を超える正答率を示しました。一方中学校の理科については、全国を上回りました。各領域等の平均正答率については、全国と同値或いは上回りました。

【児童質問紙・生徒質問紙】

小学校児童質問紙では、「家で、学校の宿題をしている」や「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「地域行事に参加している」と回答した児童の割合が全国を上回りました。しかし、読書の時間が少なく、テレビを見たり、ゲームをしたりする時間が長い傾向にありました。



中学校生徒質問紙では、「自分にはよいところがある」「学校の規則は守っている」「いじめは、どんな理由があってもいけない」「地域行事に参加している」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答した生徒の割合が全国を上回りました。しかし、将来の夢や目標を持って学校の授業の予習や復習をしたり、自分で計画を立てて勉強する割合が比較的低い結果となりました。読書や新聞を読むことについても同様でした。

この調査結果を受けて、各学校ではさらに分析を進め生活習慣や学習習慣の見直しを図り、対応を急ぐこととしています。また、一日当たりの勉強時間や読書の時間についても、家庭と一層の連携強化を図り改善をしていくこととしています。

(調査結果は道教委のホームページでも紹介し、和寒町の概要も掲載されています。)